



2013 年度 年次報告書



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)

〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-63-302
TEL. 03-3440-3373 / 03-3440-4486
FAX. 03-3440-4447
E-Mail. info@jiyd.org
URL. www.jiyd.org

発行者 馬淵 英晃
発行所 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
発行日 2014年6月1日
印刷 株式会社アネックス



VISION

すべての青少年が、以下にあげる「5つの財産」をもって
成長していくことのできる社会を目指します。

- 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
- 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
- 心身ともに健康な生活習慣
- 人のためになることをする機会
- 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を
効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

FOCUS

青少年に継続的かつ効果的にインパクトを与えるため、活動は「深化」へ。

- 1：評価事業
青少年にプログラムが届くまでの一連の普及活動の成果と課題を把握し、より確実・効果的な支援につなげる。
- 2：教材開発
新たな教材を開発し、より幅広い年齢層の子どもたちにプログラムを届ける。
- 3：授業実施率の向上
評価事業と教材開発に加えて、ワークショップ受講後の授業実施支援を行い、子ども・青少年にプログラムを届ける授業実施率の向上を目指す。

理事長あいさつ

青少年育成支援フォーラムが日本での「ライフスキル教育普及事業」に取り組んでから、2013年度で13年が経過いたしました。日本の学校教育制度に例えれば、高校卒業までの知識と経験を積み、ようやく大学に進学したところまできたと言えるのではないかと思います。小中学校の教員や教育専攻の大学生らを対象に全国で展開しているワークショップは、この1年も約100回の開催を重ね、約2,400人の受講者が参加されました。これもパートナーとしてともに普及活動に取り組んでおられるライオンズクラブの皆さまをはじめ、全国各地の教育関係者や会員の皆さまのご支援とご協力のおかげと感謝しております。



2013年度の成果としてまずご報告しなければならないのは、待望の『ライオンズクエスト ライフスキル教育プログラム 小学生版』がついに完成し、発行そして試行へとこぎつけたことです。小学校高学年から中学校にかけての思春期の子どもたちを対象にしてきたライフスキル教育は、小学校低学年から始めることによってさらに効果を上げることができるのではないか、という先生方の期待におこたえできる教材になるものと確信しております。言うまでもなく、小学生版は思春期版よりさらに分かりやすく、すでに試行された先生方からは「教科の学習にも活用できる」という声があがっているとのことです。

小学校から中学校へとライフスキル教育がつながることで、日本の将来を背負う子どもたちが、グローバル化が進む世界、多文化共生の社会でたくましく生きていくために求められるコミュニケーション能力や、共通の目標に向かって多様な人々と協働できる「人間力」を育む土台づくりになれば素晴らしいではありませんか。

もう一つご報告すべきことは、『ライフスキル教育と生徒の自己評価の変化』に関するプログラム評価事業の最終報告がまとまったことです。この教育が児童生徒の考えや行動にどのような影響をもたらすかを調査分析し確認する資料を得ることは、ライフスキル教育の普及のためにも大事です。報告はその意義を感じさせるものだと考えますが、詳細は本文でお読みいただければと思います。

JIYDは新年度も一層の事業の充実に努めてまいる所存です。皆さまのより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

理事長 野村 彰男
2014年4月吉日

ライフスキル教育プログラムの導入と展開

前宮城県公立中学校長 ちば しげみ
千葉 繁美

6年間にわたりライオンズクエスト ライフスキル教育プログラム（思春期版）の導入・実践に取り組んでこられた前宮城県公立中学校長の千葉先生。導入・実践に取り組む中での課題や効果、プログラムの普及活動に取り組むライオンズクラブとの関わり、特に学校課題にどのように向き合い、解決に向けて全校体制で取り組んでこられたのかをご紹介します。

1 はじめに

校長として2校目、初めて中学校の校長として勤務した2年目の夏休み、2名の教員を「ライオンズクエスト」のワークショップに出張させた。復命にきた教員が「校長先生！目からうろこでした！」「そうであるなら、自分もまずはセミナーに参加してみよう！」これが、初めての「ライオンズクエスト」との出会いであり、その一言がそれ以来「ライオンズクエスト」に4中学校6年間かかわらせたとっても言い過ぎではない。

これまで名前だけは知っていたもののどんな取組をしている団体かは知らなかった地域のライオンズクラブと関係ができるようになったとともに、さらに自らワークショップに参加し、その可能性を体感できた。「ライオンズクエスト」の基本的な考えと学校での広がりや可能性に期待感をもち実感できたことの集大成としての取組を平成26年3月15日（土）JIYDの総会でお話をさせていただく機会を得た。ここでは、その内容を整理して宮城県教育委員会が進めている宮城版キャリア教育の「志教育」に「ライオンズクエスト」をどう取り込んだかも含めて、管理職の立場から学校への「ライオンズクエスト」導入の効果を論じてみたい。「ライオンズクエスト」の導入を検討されている管理職、ミドルリーダーの諸氏に少しでも参考にしていただければ幸いである。



2 子どもを取り巻く現状分析

子どもを取り巻く環境は決して良好とは言えず、様々な問題であふれている。国際調査によると、先進国と比べて日本の若者は特に自尊感情が低いことが指摘されている。また、他者との関係づくりを苦手としている。これらの問題の根底に潜んでいる要因の一つは、自分の社会での役割を見いだせず、自分は他者から認められないと感じ、将来なるであろう大人としての自分の姿をイメージできないことによる漠然とした不安な気持ちが、自信や希望や勇気に繋がらない子ども達存在だ。高度情報化の時代にあっては、これらの問題は、都会であれ田舎であれ同じようなことが言える。さらに3.11東日本大震災後の子どもを取り巻く環境の激変も加わっている。

他者に認められ、自分に自信をもった子どもは、生き生きと行動するようになる。人にも優しくなる。このような自己存在感、自己有用感に触れ自尊感情を高めるには、多様な他者（とりわけモデルとなる多様な大人）との相互行為を重ねることが重要であると考え。また、体験的な活動をとおして生きるためのスキルを身に付け、他者へ関心をもつことから自分自身を

考え、自信をもち始めるきっかけをつくるのが大切だ。人が人と繋がり、地域のことを考えてよりよい社会を創ろうとする意欲を醸成させ、それを実現しようとする構想力と実行力を身に付けるよう仕掛けていく。こうした取組により微かな夢や希望を志まで高め、結果として子どもが自らの人生を切り開き、自己実現を果たすとともに、未来を共に創る東日本大震災からの復興を担う協働者となる大人になるはずである。

3 導入にあたっての戦略

教員生活の最後となったF中学校に着任した当初感じたことは、①集団としての力が弱く、起こった問題の事後指導に追われる毎日、②校務運営組織が学年で完結してしまい組織的な取組が困難、③地域との繋がりが希薄で授業参観等に参加する保護者が少ない、であった。教職員は精一杯努力しているものの徒労感を重ねていく日々であり、かつて教諭として奉職した時と変わらぬ状況も残っていたことから「ライオンズクエスト」を導入することは困難だろうと考えていた。それは、①学級数が多く学校全体で取り組むには規模が大きすぎる、②学年を越えた連携がとりにくい、③教員の人数が多くワークショップ（WS）への参加が継続できるか不明などの理由からであった。一方、教職員にはなんとか現状を改善したいという共通した思いがあった。

「ライオンズクエスト」の導入を決断したのは、一年生から表面的に解決したいじめが二年生で再発した時に学年所属の特別活動に関心をもって学級経営をしている教員を呼び、「こんなプログラムがあるがどうだろうか。ワークショップへ参加したければ何人でも出す！」と話したところ、学年所属も含め12名が参加したいと申し出たことによる。地元ライオンズクラブの全面的なバックアップにより、二学期からいじめの当該学年全体として「ライオンズクエスト」の試行に踏み切り、併せてリーダー研修会を二本柱とした実践をしながら保護者も巻き込んだ表1に示す「10の戦略フェーズ」を立てた。

さらに、教頭・ミドルリーダー層にSWOT分析をさせてF中の強み・弱みを整理させるために問題を抽出させ、六つの学校課題への具体的取組の一つとして次年度の学校経営ビジョンに位置づけた。

フェーズ	内 容
フェーズ1	核となる教員のWSへの参加
フェーズ2	まずは実践
フェーズ3	他の教員への啓発
フェーズ4	全職員のWSへの参加
フェーズ5	教育課程への位置づけ
フェーズ6	生徒の変容の調査（hyper-QU）
フェーズ7	全校あげての実践
フェーズ8	保護者プログラムの実施
フェーズ9	転任者への研修
フェーズ10	教育課程の見直し・改善

表1 10の戦略フェーズ

4 キャリア教育（志教育）への位置づけ

ライフスキル学習（ライオンズクエスト）とリーダー養成の二本柱とした「自浄作用を働かせる二学年の改革」の「①生徒の対人関係能力を高めよう。②自分たちの学校生活や生き方について、生徒同士かかわりながら体験的に考えていく授業を展開しよう。③リーダーを育て、リーダーを軸とした学級や学年を動かしていこう。」をねらいにした実践は、他の学年の教員の好影響を与えた。大まかな計画はあるものの総合的な学習の時間が3年間系統立てて実施しないなど、地域とのかかわりが希薄であるという問題の分析に対しても学校全体で取り組もうという機運が高まった。



図1 学年一斉のライフスキル学習

図1) で学級づくりや自分づくりの単元を配置し、三年ではサービスマーケティングの「まちづくりを考えよう」として地域の人材を活用するようにした。

5 全校あげての実践（志教育自主公開研究会）

日々消極的な生徒指導のために徒労感を重ねていく現状にあって、F中学校は地域の中心校であるが、伝統や歴史だけではやっていけない時代に入ったという認識を共有した。目の前の子ども達にどんな理念をもって将来どんな成長を期待したいかを教職員が「会話」「対話」「議論」と徐々に重ね、地域の元気な人たちを巻き込んだ実践はできないかという素朴な問いから始めた実践だった。学校の活性化と指導力の向上をめざした実践を「F中ブランド」として発信し、世に問うてみようとして自主公開研究会を開催した。三年「学級指導」ではライフスキル学習「人生の道のり～これからの25年間の私～」（図2）を四つの提案授業の一つとして提案した。教育関係者他ライオンズクラブのメンバーを含め240名の参加を得て大いに「ライオンズクエスト」の啓発をすることができた。



図2 自主公開時の授業

6 ライオンズクエスト導入の成果とまとめ

本稿は、学校課題の解決に向けた学校経営ビジョンに位置づけた志教育を中核とした教育課程にライオンズクエストを盛り込んだ実践を報告したが、その一部のみを報告したに過ぎない。試行半年、本格導入して1年を経過したばかりで、その成果を述べることは拙速であり、甘い評価と承知の上ではあるが、生徒のQ U調査、生徒・保護者・教員の学校評価や観察により表2のことが挙げられる。何より生徒自身の自分を見つめ直す機会が増え、他への関心が増し良さを実感できるようになり、教職員の満足感や達成感が高まったことが大きな成果といえる。

（１）生 徒	（２）保 護 者	（３）教 員
① いじめの報告が減少	① 思春期の子どもの身体的、精神的発達の理解	① ねらいを明確にした展開が教科にも波及
② 小さな問題行動が激減	② 子育ての不安感の薄らぎ	② 多様な指導法への転換
③ 人間関係でのトラブルの減少	③ 同じ子育ての悩みの共有	③ 生徒の変容による自信の獲得
④ リーダーの台頭	④ 家庭の安心、安定	④ 一体感の醸成による職場環境の改善
⑤ 地域への関心の高まり	⑤ 教師、学校への信頼	⑤ 学年を越えた縦と横の関係の構築

表2「ライオンズクエスト」導入の成果

こうした実践は「継続」して行われることが大切であり、以下の課題を解決して実践していくことが真に子どもに生きた力として身に付いていくものである。

- （１）毎年度の終わりと始めに導入に至る経緯やS W O T分析の確認
- （２）P D C Aサイクルに沿った指導計画の見直し
- （３）未ワークショップ受講者（転入者も含む）へのワークショップへの参加促進と支援体制
- （４）オン・ザ・ジョブ・トレーニングでの研修とフォローアップワークショップへの参加促進

7 今後のライオンズクエストへの期待

F中学校（H25.5.1現在592名在籍）は、かつて教諭時代8年間勤めた学校（生徒数1,100名以上在籍）であり、当時生徒だった者達がPTAの役員となってバックアップしてもらえるというある種恵まれた中での勤務であったために為し得たものと思っている。しかし、「やりたい」という必要感から生まれた実践は、やらされる実践より遙かに価値があり、学校に根付いていくものであると確信する。また、ライオンズクラブやJIYDとは「未来ある子ども達の健全育成」という視点では、学校と共通した思いや願いをもっており、「Win-Win」の関係を持ち続けたいと願うものである。

今後一市民として、他の学校等へも「ライオンズクエスト」に関して次の啓発活動・実践に微力ながら応援したいと考えている。

- （１）小学校プログラムの普及啓発の強化
- （２）予防的開発的生徒指導の観点（特にいじめ問題への対応）での啓発
- （３）被災地の子ども支援
- （４）放課後児童クラブでの試行

ライオンズクラブと教育委員会の連携埼玉県秩父市の取り組み

秩父中央ライオンズクラブ おおしま 大嶋 よういち 洋一

日本で最初にライオンズクエストを導入した地域の一つである埼玉県にある秩父市では、地元のライオンズクラブが、県レベルのライオンズクラブ組織の支援を得て、市教育委員会と連携しながら、市内全体でライススキル教育／ライオンズクエストを導入・実践していくことを目標に取り組まれています。本稿では、同市で中心となって普及活動に取り組まれている秩父中央ライオンズクラブの大嶋洋一さんにこれまでの普及活動と今後の目標についてお聞きしました。

＊市内の中学校への導入

秩父第一中学校では、2005年8月に校長先生・教頭先生を含む教職員全員が参加した校内型ワークショップを開催し、2005年9月より全学年がライフスキル教育（ライオンズクエスト）を導入しました。学校全体の取組はすごいパワーを感じるほどの動きがありました。2006、2007年度も、校長をはじめとする人事体制に大きな変化がなく、前年度と同じペースで授業は進んでいきました。2008年度より新校長が着任し、ライフスキル教育が導入から2年7ヶ月経過した中で、新校長の体制下でも継続されました。秩父中央ライオンズクラブでは、PTA会長（歴代PTA会長は秩父中央ライオンズクラブメンバーが務めている）を通じて常に学校と近い距離に居り、途絶えることなく支援を行うことができました。

続いて、秩父第二中学校では、2005年11月にPTA主催による体験会を開催し、翌年8月には校内型ワークショップを開催しました。これにより秩父第二中学校も実施校の仲間入りをしました。秩父第二中学校も秩父第一中学校同様に、導入はPTA会長を通じて進めましたが、PTAと我がクラブとのつながりがなく、支援体制に不安が残りました。



＊新着任教職員への支援

新年度の異動により、新着任者は毎年2校で管理職と教職員を合わせて10名以上います。新着任者がワークショップへ参加できるよう、毎年支援が必要です。そのため、ライオンズクラブ国際協会330-C地区（埼玉）に対してライオンズクラブ国際財団（LCIF）から得た交付金をもとに市内でワークショップが開催できるように働きかけ、実際に市内で何度もワークショップを開催しました。並行して、東京都内で開催されるワークショップへ秩父第一・第二中学校の先生方が参加できるように支援しています。



＊市内全体に広めていきたい

秩父第一・第二中学校への導入の後に、市内で新たに導入校をつくるべく活動を進めていく過程で、市内全体へライフスキル教育を普及することが今後の目標と考えるようになり、そのためには教育行政

と一緒に行動する必要があると考えました。資金的なことも行政に負担してもらう方向で活動する必要があると考え、関係団体等を巻き込む工夫をしました。2009年8月に開催したワークショップは、秩父市PTA連合会の主催として、秩父市教育委員会の後援を得ての開催となりました。また、開催にあたり市内小中学校の校長会に出向き、ワークショップへの参加をお願いし、25名の修了者を出すことができました。秩父地域では異動により修了証を受取った先生が地域の外へ分散することがあまり無く、このまま普及活動が続けていけば、やがて、市内のどの学校でもライフスキルの授業ができるようになる、そうありたいと願っています。



＊活動には資金が不可欠

秩父中央ライオンズクラブでは、次年度へ繰り越し可能なライオンズクエスト特別会計の開設により、複数年度の予算を積み立て、一時的な大きな出費も可能になっています。また、地区が得ているLCIFの四大交付金事業の一環として市内でワークショップを開催できたことが、普及への大きな力となりました。

＊導入後も学校と近い距離を保つ

ライオンズクエストの学校への導入は、クラブや地区、JIYDと協力し、人脈とタイミングを見のがさなければ実現可能だと思います。しかし、大変なのは導入後の支援やフォローを続けていくことです。少なくとも3年から5年間の地道な支援やフォローをすることが非常に大切です。学校との距離を広げず、常に近い距離を保つ工夫が必要だと思います。

＊教育委員会主導が実現

秩父市では過去7回のワークショップが開催されましたが、教育行政や諸団体への働きかけの成果があり、現在は秩父市教育委員会が主催となりました（教育委員会が開催費用も一部負担）。毎年夏休み期間中にワークショップを開催し、市内の先生方が参加できるようにしています。普及活動が停滞しそうな時期もありましたが、2011年に現在の教育長が着任し、秩父市のライフスキル教育は大きく前進しました。

＊今後の目標

秩父市内全体の小・中学校への導入を目標としています。市内の22校（小学校13校・中学校9校）、全ての学校に導入することにより、先生が何処の学校へ着任してもライフスキルの授業ができ、地域全体の子どもたちに生きる力を与えられます。先生方も研鑽を重ねて、より良い教育環境を充実させることができます。子どもたちが安心して学ぶことができる秩父市“ライフスキルの街ちちぶ”を教育行政機関と共に目指していきたいと考えています。

＊最後に

10年間の普及活動を通して感じていることは、ライフスキル教育は中学校だけでは対処法に追われてしまいがちということです。中学校で問題を抱える子どもはすでに小学校低学年に変化を見せ始めていると思います。また、中学校に進んだ時に一番不登校に陥りやすいと言われており、小学校から違う環境に移る時を、子どもたちにとって良いチャンスにしていきたいと考えています。ライフスキルを身につけた小学生が中学校で更に生きる力を発揮できれば、充実した学校生活をおくることができ、明るい未来が広がると信じています。

ライオンズクエストフォーラム全国大会in富山

2013年8月2-3日、富山昭和ライオンズクラブ主催で「ライオンズクエストフォーラム全国大会in富山」が開催されました。ライオンズクエストプログラムの普及活動に取り組む人々が一堂に会する「全国大会」は日本初。約**350名**が参加し、これまでの普及活動と今後の展望について意見交換しました。

全国の様々な活動実績を実際に直接見聞きできる、意見交換できる、というインパクトは大きく、「大変刺激になった」、「持ち帰って、活動の場で共有している」、という声が聞かれました。関係性を大切にしたプログラムであるからこそ、ライオンズクエストに関わっている人々が繋がるということが大きな力になることをあらためて認識した機会となりました。



基調講演「今、そしてこれからのライオンズクエスト」 認定講師：柴咲子先生

ライフスキルの効果や具体的な手法、プログラム導入時に教師が心掛けておくべきことなど、教育現場にいるからこそ気付くことの出来た貴重な体験談。プログラム導入校における教師の心構えについても言及し、「導入が決まったら、教員全員が一丸となってその効果を信じて実践することが大事。初めてのことには苦労がつきもので、自分の教科以外のことに自信がないのは当たり前。でも一度授業をやってみると、次回からは生徒の反応にも余裕を持って対応が出来る。ライフスキルの授業が出来ること、その手法を使えることは、何より教師の糧になる。『生徒に教える』というより『生徒と共に学ぶ』姿勢で、授業に臨んでほしい」同じ立場にある教師へのメッセージが多い内容。学校側の考えや課題を代弁しているようでした。



さまざまな立場でライオンズクエストに携わる5人のパネリストを迎え、パネルディスカッションを実施。

保護者代表：富山市が学校選択制を採用したことで、市内のどの中学校にも通えるようになったとき、大泉中学校ではじめてライフスキルの授業を拝見しました。子どもたちにとっても学校にとっても、そして先生にとっても非常に良いプログラムだと思い、娘に話すと大泉中への進学を選択。小学校のころより表情が明るくなり、毎日が楽しそうでした。全てがライフスキル教育のおかげではないにせよ、一つの大きな要因だったと思っています。

説明員：ライフスキルの授業ではよく、子どもたちの目が輝くなどと言われますが、なぜそうなるのか。私たち大人も興味のあることを話している時は表情がイキイキとしているもの。ライフスキルで扱う内容は、子どもたちにとっても非常に興味があるものなのだと思います。

実践校教諭：校長以下、教員スタッフが15人の小所帯ということもあり、ライフスキルの担当者を設けずスタッフ全員で取り組んできました。これが継続出来た鍵じゃないかと思っています。担当者不在はデメリットに見えますが、特定の担当者の異動により熱が冷めてしまうことを未然に防ぐ仕組みと言えるかもしれません。

説明員：学校は、子どもたちのためにどのようなプログラムを取り入れたらいいかを研究し、模索しています。学校は良いプログラムを待っています。だから、ライオンズクエストというすばらしいプログラムがあることを、ライオンズメンバーが自分の声で紹介しないといけないと思います。現在、普及の障害になっているのは、ライオンズクエストのことをちゃんと理解して伝えられるメンバーが少ないということ。ライオンズの声は、まだまだ小さいと思います。

富山昭和LC：当時の会長が強いリーダーシップを発揮してクラブ内の意思を統一。ところが、知れば知るほど、最低でも3年は継続しないと学校へのアプローチは出来ないと感じた。そこでネックとなるのが、ライオンズの単年度制だった。そのため、ライオンズクエストをクラブ事業として3年間継続することについてクラブで承認を受け、普及活動に取り組んできた。



公開授業：富山市立大泉中学校、片山学園中学校

大泉中学校の2年生は仲間からの好ましくない誘いに対し、穏やかだがしっかりと自己主張して誘いを断る学習を、3年生は目標に向かって進んでいるときに誰しもが経験する挫折への対処方法を学ぶ授業を実施。片山学園中学校の1・2年生は、スムーズな学園生活が送れるように同校が取り入れているライフスキルを使った「手紙のやりとり」を披露してくれた。



授業を実践した生徒の感想

私は、ライフスキルの授業をいつも楽しみにしています。普段は決して話さないような人と一緒に活動したり、仲のいい友達の知らなかった一面に気づいたりするからです。「悪い誘いの断り方」を考える活動では、話し方や態度を工夫するのがよいと分かりました。 **（1年女子）**

僕は、ライフスキル学習を取り組むことに、二つの良い点があると分かりました。一つ目は、友達との絆を深められる点です。みんなで話し合い活動をすることでお互いの個性を知り、考え方を分かち合うことができました。二つ目は、自分の未来に生かせる点です。社会にてて、様々な状況判断が必要な時に、よりよい選択ができると思います。 **（2年男子）**

私は、このライフスキル学習で、相手に自分の意思を伝えることの大切さを学びました。授業の中でいろいろな活動を通して、自分自身の心にどうやって向き合えばよいかを学ぶことができました。また、友達やクラスメイトと活動していく中で、友達に自分が思っていることを素直に伝えることの必要性を感じることができました。 **（3年女子）**

分科会1対象：学校教育関係者

ライフスキル教育の効果を確かめ合う場となった。実際に導入している学校では、人間関係づくりの授業を入学直後に集中的に行うという報告が数例あった。アドバイザーの柴認定講師からは、ライオンズクエストは体系的にしっかり作られたプログラムであるので、繰り返し学ぶことで効果が上がる話や、個人でも学年でも出来るところからはじめてほしいというアドバイスがあった。



分科会2対象：ライフスキル入門者

ライオンズクエストのことがよく分からないという意見が多くでました。富山昭和LCからは、「ライオンズクエストのことを知らないと、この事業に着手出来ないというのは誤解だと思います。走りながら勉強あるのみ。学校へ出向いて、JIYDに聞いて、キャビネットと交渉して、と動いてみないとわからないことがたくさんありました。まずは走りだしてみること。知識は後からついてきますし、きつとうまくいくはずです。」というエールともとれる話がありました。

分科会3対象：活動実績のあるクラブ

普及活動を行う上での課題や現状の問題点などについて議論。ライオンズクエストの最終的な目的や到達点がはっきりしていないのが大きな問題という厳しい意見もでました。332-C地区（宮城県）から、「教育というのはそれぞれの地域で事情が異なるもの。当地区では自分たちのエリアにあったやり方で普及させるべく、県の教育委員会に認めてもらえるまで続けることを目標にした」という例が紹介された。その他、WS日程、講師養成、費用などさまざまな議論がなされました。

分科会4対象：ライオンズクエスト説明員

2013年7月に出来たばかりの小学生版の概要説明を行い、実際に全員参加で模擬授業を行った。普及活動においては、小学生版をいかに知ってもらおうかというアプローチではなく、ライオンズクエストをPRする中で、対象や子どもたちの発達段階に合わせて思春期版と小学生版の適した方を紹介していくことが大事であることが強調された。



ご参加くださいました皆様のプログラムに対するご理解と、日本の将来を担ってくれる青少年に対する熱き思いには、敬意を表する次第であります。今大会を通し、全国でのプログラム普及活動の工夫、アイディア、課題をお聞きすることによって、今後の更なる全国規模での普及に繋がり、地元での活動にお役に立てばと切に願っています。また、富山から発信した、この全国フォーラムが全国各地で開催されるようになれば、私共にあってこれ以上の喜びはありません。

富山昭和ライオンズクラブ13-14年度会長 長江正憲

*この記事は、富山昭和ライオンズクラブ発行の「ライオンズクエストフォーラム全国大会in富山 報告版」より抜粋して作成しました。

小学生版の開発と試行

ライオンズクエスト認定講師 ^{てらもと} 寺本 ^{ゆきと} 之人

2013年7月、遂に小学生版教材開発事業が完了し、導入を開始しました。小学生版の導入を目標に、認定講師になられた寺本講師。実際に小学生版教材開発事業に参加し、勤務校への導入も手がけ、子どもたちに小学生版が届くようになりました。寺本講師の小学生版への思いと授業を受けた子どもたちについてお聞きしました。

私がライオンズクエストに出会ったのは12年前。“これはいける！”というのが第一印象でした。幸いに当時勤務していた中学校の理解もあり、学校をあげてプログラムを実施でき、期待していた通りの手ごたえを感じました。そうして、実践を始めてから3年ほどたつと、“このプログラムを小学生のころから指導できれば、更に高い効果が得られるだろう”と思うようになりました。



平成20年にライオンズクラブ国際協会334-B地区（岐阜・三重）から講師養成のお話をいただき、やってみようと思決意した大きな理由に、小学生版の導入を実現させたいという思いがありました。以後、小学生版開発事業が始まり、ワーキングチームの一員として参加させていただいたことは大変幸運でした。小学生版プログラムのオリジナル（英語版）が思った以上に素晴らしいものであることも知りました。

もともと長く中学校に勤務していましたが、小学生版開発事業に備え、小学校教員として勤務していました。同僚から「おもしろそうなことやってるね、ちょっと教えてよ。」という機会が多くなり、それならばと、勤務校での校内型ワークショップを企画し、2013年8月、小学生版の運用開始直後に実現することができました。

校内型ワークショップからいかに校内で本格的な実施に繋げるかというのは、重要な問題ですが、私は、「ワークショップを実施した年度は試行で、気楽にいろいろ試してみてください、本格的な実施は次の年度の4月からです。」というようにお願いしました。それは、過去の経験から、継続的に実施するポイントだと思っているからです。おかげさまでワークショップ実施後、2学期から校内でいくつかの授業が実施されました。



思春期版もそうですが、小学生版ではより一層特徴ある掲示物が授業で使われます。ですから、掲示物を見ると授業が行われたことのみならず、どんなふうに行われたかまでわかるのです。左の写真は、「3年生：単元2授業4 友だちをつくる“道具”」を行った学級に掲示されていたものです。私がこの学級に行ったとき、たまたま子どもたちの中で口論がありました。そこで、この掲示物の方を向かせて、「友達だったらどうするのかな？」と声かけができました。授業の内容を日常生活に活かすことが大切ですが、掲示物がそのことを助けてくれます。

小学生版で学習する内容は、基本的に思春期版とそう変わるものではありません。スキルのどの部分をどのように指導するか、小学生段階で身につけられるように配慮してある点が違いです。次の写真は、ワークショップでも取り上げる「3年生：単元1授業3 何かをあげて大きくなろう」の掲示物です。

この授業実施後、教室では「今のは、“やさしくしてあげる”だったね」のように親和的な行為に気づいて声に出す子どもたちの姿が見られたということです。素朴なことではありますが、我々大人も仲良くなるための4つの“あげる”を理解し、実践できているかという点と疑わしいと思います。小学生版では、大変わかりやすくライフスキルを学習することができ、大人も再認識できるようなケースも多々あります。



小学校の授業というのは中学校に比べ、もともと参加型、体験型が多いものです。ですから、同僚からは教科の学習にも活用できることも報告されました。特にグループワークのやり方などは役立つとのこと。教科の授業の中でサイレントサインが使われたり、“道具係”、“報告係”等の分担が行われたのがその例です。

“まず、気楽にいろいろ試してみてください”という実践をお願いしたのは正解だったと思っています。楽しく、プログラムの良いところを見つけていただき、もっとやってみたいという前向きの姿勢を持っていたからです。年度が変わり、平成26年度は4月から本格的にプログラムが実施されています。私の方はいいますと、小学生版が完成しましたので、再び中学校に勤務しております。昨年度までお世話になった同僚の皆様には、小学生版完成のために小学校というものがどんなものかを学ばせていただき、感謝しております。今後も生まれて2年目の小学生版を大きく育てていただくものと信じております。

＜ちょっと授業紹介＞

3年生：単元2授業4
友だちをつくる“道具”

友だちがほしい。みんなにとって友だちは必要。友だちは、お互いに友だちになるスキルを身につけた人。友だちになる方法を学ぼう！

友だちに優しい具体的な行動を書きだし、それらを分類して「友だちになるスキル」としてまとめる。そして、大きな人型に分類した「友だちになるスキル」を書きこみます。

3年生：単元1授業3
何かをあげて大きくなろう

人間は“何かをあげる生き物”。相手への思いやりをあらわすために、何かをあげる。他の人にあげることが出来る4つの方法を学ぼう！

今まで誰かに何かをしてあげたことを思い出し、「やさしくしてあげる」「ほめてあげる」「教えてあげる」「物をあげる」の4つに分類。これらをグラフにして表し、“あげる”を見つけてグラフを伸ばしていきます。

(参考) ライオンズクエスト ライフスキル教育プログラム	
小学生版（Skills for Growing）	主な対象：小学校1～5年生
思春期版（Skills for Adolescence）	主な対象：小学校高学年～中学生

プログラム評価事業

普及活動の目的は、プログラムを一人でも多くの子どもたちに届け、よりよい人生を送るのに役立ててもらうこと。この目的をより確実・効果的に達成するために、定期的に活動を評価し、その結果を踏まえて活動の質を高めていくことが不可欠です。その一環として、JIYDでは2010年よりプログラム評価事業に取り組みました。

● プログラム評価とは

プログラムを授業等で実施してもらえるよう、主に教員を対象に行っている2日間のワークショップ。終了時のアンケートでは、プログラムに対する好意的な声、学校で導入したいとの回答が大変多く見られます。これは大変喜ばしいことですが、ライフスキル教育プログラムの本当の価値はそこにとどまりません。ワークショップの開催回数や受講者数、先生たちの好意的な声の先にある、学校での授業実施、授業を受けた生徒たちに好ましい影響を与えられているか、その効果を通して評価できるものです。JIYDでは、授業実施後、生徒たちがどのような影響を受けているのか、その効果実証のために、3カ年のプログラム評価事業を行いました。

● 3カ年の結果概要

本調査のために作成したライフスキルに関わる11カテゴリー30項目からなる質問紙を使い、9校の中学生を対象に、3年間にわたり4回のアンケート調査を行いました。

その結果、ライフスキル教育を行うことで、以下のような可能性があることがわかりました。

- 性別でみると、女子よりも自己評価が低い傾向にある男子の自己評価が特に上がる傾向があった。（図1・2）
- 学年別でみると、自己評価が低くなる傾向にある2年生以降も自己評価が低くなりにくい傾向があった。（図1・2）
- 自己評価が低かった群をみると、自己評価が高くなる傾向があった。

● まとめ

3カ年の評価を行ったことで、授業を受けた生徒たちにさまざまな効果が出る可能性があることがわかりました。学校の日々のさまざまな取り組みや、課題の改善作業などの教育活動がある中で、ライフスキル教育だけの成果であることを断定することはできません。しかしながら、教育課程にライフスキル教育を取り入れたことで、学校全体の教育活動に好ましい影響を与えたことは十分想定できる結果でした。今回の結果をもとに、今後さらなる授業実施のサポート体制を構築していきたいと思います。

● 新たな広報ツールとして

今回の3カ年の評価事業は最終報告書『ライフスキル教育と生徒の自己評価の変化』に纏め、全国のライオンズクラブ、教育委員会、プログラム実践校などへお届けし、新たな広報ツールとして活用いただけるよう、ご案内していきます。

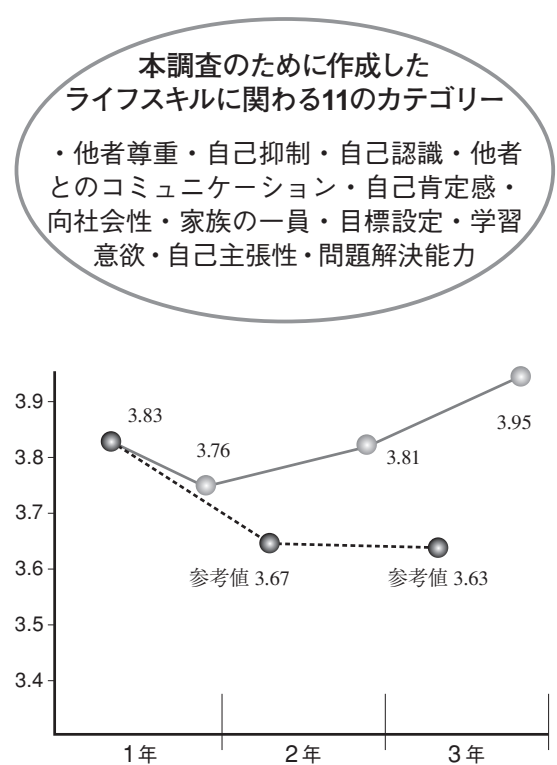


図1 自己評価平均値の推移 (女子)

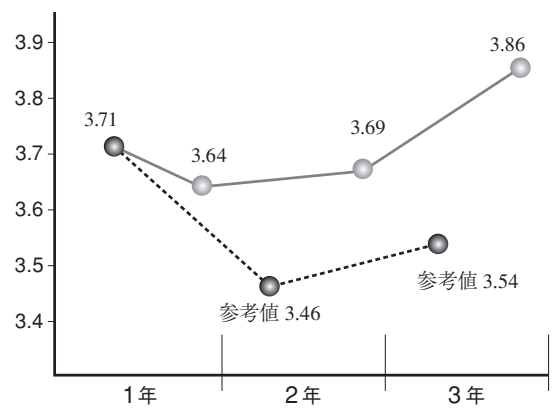


図2 自己評価平均値の推移 (男子)

2013年度事業報告

小学生版の運用を開始。思春期版と小学生版の2つの教材で幅広い年齢層、様々な状況に対応できるようになりました。実践事例の紹介、講師養成などを通し、実践者へのサポート体制を築いていきます。

● 年間ワークショップ100回

2010年以降、ワークショップ回数は年間約100回開催。2013年も同様。全国への拡大は続いています。内、学校全体でワークショップを開催する校内型ワークショップは約4割でした。

● 受講者／実践校のスキルアップ

ワークショップ修了者や実践校を対象とするフォローアップワークショップを17回開催。特に学校全体でフォローアップワークショップを開催する形が増加。実際に使ってみての課題や今後の応用への要望に応じていきます。

● 教材開発

2013年7月から小学生版教材の運用が始まりました。（詳細はP11・12参照）。

● 新講師誕生！

2013年7月、新しい講師が誕生しました。中村千恵子先生です。中村先生は、公立中学校でプログラムを実践されていました。



中村千恵子先生

～メッセージ～
ライオンズクエストを、1人でも多くの子ども達に伝えることが、社会への恩返しと考え、努力して参ります。

現在、日本国内における認定講師は9名です。また、2014年中の完了を目指し、新たに講師1名を養成中。（講師名一覧はP20参照）

● 評価事業

プログラムの活用方法や効果・課題を調査する活動を実施しています。

- プログラム評価（実践校、モデル校における授業実施評価）
- ワークショップ評価（ワークショップ受講後のワークショップ修了者の実施状況調査）
- 実践校アンケート（実践校での実施状況調査）

● 実践事例の発表

2013年8月、富山市で「ライオンズクエストフォーラムin富山」が富山昭和ライオンズクラブとの共催で開催しました。富山昭和ライオンズクラブが継続的に支援している富山市立大泉中学校の実践事例やライオンズクラブとしての活動事例を発表し、普及活動についてのパネルディスカッションなどを実施しました。

● 実践のサポート

東京で開催されたワークショップ受講者を対象に、「ライオンズクエストお役立ち情報」と題し、ライオンズクエストの導入と継続して実施する手助けになる情報配信（隔週）をしています。主な内容は以下の通り。

- 時期に合わせた活用方法
- ワークショップ開催情報
- 授業展開の紹介
- 実践者の声

その他、「実践事例集」や「学校でやってみよう！」という資料の配布、ブログの更新などを通して、ワークショップ修了者が実践できるサポート材料を用意しています。ブログは「Qベアレポート」で検索！



● ライオンズクラブによる普及活動の広がり

＜LCIF四大交付金による普及拡大事業＞

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）より、全国のライオンズクラブが地区単位で助成金（LCIF四大交付金）を得て、各地区内への普及拡大に取り組んでいます。取り組んでいる地区は2013年7月～2014年6月期で28準地区。そのほとんどが継続的に取り組んでいる地区です。新たに加わったのは、333-D地区（群馬県）・333-E地区（茨城県）・334-E地区（長野県）です。

活動がワークショップ開催に集中していた時期と比べ、フォローアップ活動や実践校の実施支援も重視されてきています。

＜ライオンズクエスト説明員＞

ライオンズクエスト説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどが、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった人です。2013年末現在、全国に59名います。地域の学校や教育委員会、ライオンズクラブの例会や会合でプログラムを紹介したり、普及活動のニーズに応えることができる説明員は重要な存在です。

JIYDでは、説明員を養成するとともに、説明員のスキルアップと意見交換を目的とする年一回の研修会も実施しています。2013年は、富山で開催された「ライオンズクエストフォーラムin富山」の分科会で実施しました。小学生版の内容を知るため、模擬授業を受けたり、説明のポイントを紹介したりしました。



LCIF四大交付金実施地区 (2013年7月～2014年6月)				説明員
複合地区	準地区	都 道 府 県	実施	
330	330-A	東京		
	330-B	神奈川・山梨		
	330-C	埼玉	○	
331	331-A	北海道（中央）	○	
	331-B	北海道（北・東）	○	
	331-C	北海道（南）	○	
332	332-A	青森	○	1
	332-B	岩手	○	1
	332-C	宮城	○	3
	332-D	福島	○	
	332-E	山形	○	2
	332-F	秋田		
333	333-A	新潟	○	4
	333-B	栃木	○	1
	333-C	千葉	○	3
	333-D	群馬	○	6
	333-E	茨城	○	
334	334-A	愛知	○	5
	334-B	岐阜・三重	○	5
	334-C	静岡	○	7
	334-D	富山・石川・福井	○	6
	334-E	長野	○	1
335	335-A	兵庫（東）	○	2
	335-B	大阪・和歌山	○	
	335-C	滋賀・京都・奈良	○	
	335-D	兵庫（西）	○	
336	336-A	徳島・高知・香川・愛媛	○	4
	336-B	鳥取・岡山	○	
	336-C	広島	○	
	336-D	山口・島根	○	2
337	337-A	福岡		
	337-B	大分・宮崎	○	1
	337-C	佐賀・長崎	○	
	337-D	鹿児島・沖縄	○	5
	337-E	熊本		
合計			30	59

2013年度決算報告

貸借対照表

2013年12月31日現在

(単位：円)			
科 目	当期分	前期分	増 減
《Ⅰ資産の部》			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	1,242,908	936,613	306,295
立替資金口	※1 36,472,835	59,033,108	△ 22,560,273
貯蔵品	※2 7,824,486	2,609,276	5,215,210
前払費用	838,606	2,939,033	△ 2,100,427
立替金	58,176	0	58,176
未収入金	29,595,286	17,332,696	12,262,590
流動資産合計	76,032,297	82,850,726	△ 6,818,429
【固定資産】			
(1)有形固定資産			
什器備品	27,871	41,701	△ 13,830
(2)無形固定資産			
電話加入権	※3 0	226,408	△ 226,408
(3)投資その他の資産			
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金	※4 5,000,000	0	5,000,000
固定資産合計	5,327,871	568,109	4,759,762
資産の部 合計	81,360,168	83,418,835	△ 2,058,667
《Ⅱ負債の部》			
【流動負債】			
未払金	1,823,164	1,710,560	112,604
前受金	5,000	0	5,000
預り金	133,403	263,867	△ 130,464
未払消費税	408,000	401,600	6,400
流動負債合計	2,369,567	2,376,027	△ 6,460
負債の部 合計	2,369,567	2,376,027	△ 6,460
《Ⅲ正味財産の部》			
前期繰越正味財産額	81,042,808	83,055,678	△ 2,012,870
当期正味財産増減	△ 2,052,207	△ 2,012,870	△ 39,337
正味財産の部 合計	78,990,601	81,042,808	△ 2,052,207
負債及び正味財産の部 合計	81,360,168	83,418,835	△ 2,058,667

- ※1. ライフスキル事業の運転資金です。
- ※2. これまで前払費用としていた教材の預け在庫を貯蔵品としました。
参考) 2012年度に前払費用とした教材預け在庫額 ￥2,166,191
2013年度に貯蔵品とした教材預け在庫額 ￥3,904,007
- ※3. 電話加入権は、資産価値が見込めず全額を評価損としました。
- ※4. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予測される付随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。

活動計算書(正味財産増減計算書) 自2013年1月1日 至2013年12月31日

(単位：円)			
科 目	当期分	前期分	差 異
《Ⅰ 経常収益》			
【受取会費】			
正会員受取会費			
個人	375,000	420,000	△ 45,000
法人	0	0	0
受取会費計	375,000	420,000	△ 45,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金			
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会	1,500,000	2,600,000	△ 1,100,000
公益財団法人 森村豊明会	2,000,000	0	2,000,000
その他	123,946	178,700	△ 54,754
一般寄付金	70,000	120,000	△ 50,000
受取寄付金計	3,693,946	2,898,700	795,246
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】			
ライオンズクラブ国際財団	47,738,589	44,117,475	3,621,114
その他	1,956,136	3,394,350	△ 1,438,214
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	49,694,725	47,511,825	2,182,900
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	14,634,000	14,600,000	34,000
その他：体験会謝礼等	2,506,991	2,268,371	238,620
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	17,140,991	16,868,371	272,620
【その他収益】			
受取利息	11,869	12,002	△ 133
雑収入	626,000	560,000	66,000
その他収益計	637,869	572,002	65,867
経 常 収 益 計	71,542,531	68,270,898	3,271,633
《Ⅱ 経常費用》			
【事業費】			
(1) 人件費			
給料手当	12,928,706	15,729,721	△ 2,801,015
法定福利費	1,530,898	1,643,865	△ 112,967
通勤費	669,769	831,537	△ 161,768
人件費計	15,129,373	18,205,123	△ 3,075,750
(2) その他経費			
謝金	15,029,354	14,159,816	869,538
通信費	357,586	345,457	12,129
荷造運賃	2,120,427	1,605,708	514,719
旅費交通費	6,231,059	5,536,373	694,686
WS昼食代	143,145	148,098	△ 4,953
消耗品費	489,464	424,742	64,722
会場費	399,100	327,575	71,525
家賃	1,200,000	1,200,000	0
リース料	281,310	246,660	34,650
支払手数料	164,610	126,615	37,995
印刷費	21,022,055	16,229,786	4,792,269
ライセンス料	1,254,217	1,084,928	169,289
その他	328,514	298,465	30,049
その他経費計	49,020,841	41,734,223	7,286,618
事業費計	64,150,214	59,939,346	4,210,868
【管理費】			
(1) 人件費			
給料手当	4,375,113	5,105,676	△ 730,563
法定福利費	1,071,455	1,071,568	△ 113
通勤費	236,638	220,270	16,368
人件費計	5,683,206	6,397,514	△ 714,308
(2) その他経費			
支払報酬	286,822	266,872	19,950
通信費	421,702	410,421	11,281
荷造運賃	42,060	38,620	3,440
水道光熱費	129,793	125,964	3,829
旅費交通費	132,976	180,750	△ 47,774
消耗品費	195,896	337,413	△ 141,517
会場費	104,680	79,380	25,300
家賃	1,200,000	1,200,000	0
租税公課	418,876	404,201	14,675
リース料	280,650	246,000	34,650
支払手数料	81,578	87,048	△ 5,470
印刷費	28,934	53,894	△ 24,960
減価償却費	13,830	26,680	△ 12,850
その他	197,113	488,845	△ 291,732
その他経費計	3,534,910	3,946,088	△ 411,178
管理費計	9,218,116	10,343,602	△ 1,125,486
経 常 費 用 計	73,368,330	70,282,948	3,085,382
当期経常増減額	△ 1,825,799	△ 2,012,050	186,251
《Ⅲ 経常外収益》			
	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
《Ⅳ 経常外費用》			
過年度損益修正損	0	0	0
電話加入権評価損	226,408	0	226,408
貯蔵品除却損	0	820	△ 820
経常外費用計	226,408	820	225,588
当期正味財産増減額	△ 2,052,207	△ 2,012,870	△ 39,337
前期繰越正味財産額	81,042,808	83,055,678	△ 2,012,870
次期繰越正味財産額	78,990,601	81,042,808	△ 2,052,207

※1. 「受取助成金-ライフスキル教育普及事業」の細目として、ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト四大交付金事業に関わる受取助成金は「ライオンズクラブ国際財団」、それ以外の事業に関わる受取助成金については「その他」と表記しています。

※2. 主にワークショップ参加費キャンセル料です。

※3. ライオンズクエスト認定講師および説明員、プログラム評価事業や教材開発・改訂、認定講師養成、ワークショップのアンケート集計に対する謝金です。

※4. JIYD主催東京ワークショップの昼食代です。 ※5. 教材、パンフレット、年次報告書、名刺印刷です。

※6. ライオンズクラブ国際財団 (LCIF) に対するライオンズクエスト・プログラムの著作権料です。 ※7. 会計監査報酬、労務諸手続報酬、総会講演会謝金です。

※8. 広告宣伝費、会議費、図書資料費、保険料、諸会費、雑費が含まれます。

事業費の内訳

(単位：円)			
科 目	ライフスキル教育事業	広報事業	事業費 計
(1) 人 件 費			
給料手当	12,688,706	240,000	12,928,706
法定福利費	1,530,898	0	1,530,898
通勤費	669,769	0	669,769
人件費計	14,889,373	240,000	15,129,373
(2) その他経費			
謝金	15,018,243	11,111	15,029,354
通信費	349,621	7,965	357,586
荷造運賃	2,099,487	20,940	2,120,427
旅費交通費	6,231,059	0	6,231,059
WS昼食代	143,145	0	143,145
消耗品費	476,636	12,828	489,464
会場費	399,100	0	399,100
家賃	1,200,000	0	1,200,000
リース料	281,310	0	281,310
支払手数料	164,610	0	164,610
印刷費	20,589,455	432,600	21,022,055
ライセンス料	1,254,217	0	1,254,217
その他	328,514	0	328,514
その他経費計	48,535,397	485,444	49,020,841
合 計	63,424,770	725,444	64,150,214

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、体験会の開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

監査報告書



2014年度事業計画

2013年度に評価事業と小学生版教材開発が完了。次はそれらを活用・定着させ、継続的な実施への支援・フォローアップ体制を充実させていきます。

● 安定したワークショップ開催、フォローアップ体制の充実

ワークショップ開催年間約100回が定着してきました。プログラム導入のスタートは、ワークショップを受講するところから。毎年、安定して年間約100回のワークショップが開催できるよう、事務局と講師が連携して、ワークショップ開催の基盤を強化していきます。

ライオンズクエスト認定講師を増員すべく、2013年度より講師養成事業を遂行中。2014年中には認定講師が計10人になり、全国のワークショップ開催希望に対応していきます。プログラムの専門知識と実践経験をもち、個々に特徴ある認定講師が、実践者・実践校のニーズにあったフォローアップをしています。

● 教材開発

2013年度に引き続き、現行の思春期版教材をより使いやすいものにするため、内容の改訂作業を進行中。使いやすさとわかりやすさだけでなく、伝えたいライフスキルやプログラムの考え方を大事にした内容にしていきます。

● 広報ツールの充実

小学生版の導入や評価事業の完了に伴い、プログラムを紹介するパンフレットを、現在のプログラム内容や効果を含むよりわかりやすいものに改訂します。プログラムを知る第一歩であるパンフレットを手にとると、もっと知りたい！学んでみたい！と思えるものを目指します。

また、ライオンズクエストプログラムのホームページを改訂し、広く一般の方にとって、わかりやすくプログラムを知っていただく場となるようにします。



ワークショップの様子

「基本は同じ。でも、十人十色」

私が講師になってから10年以上。2人でスタートした講師が、10人になろうとしています。ライオンズクエストを子どもたちに届けたいという同じ思いのもとに集まった10人は、個性、専門分野、経験した現場がそれぞれ違います。さまざまなニーズに対応する魅力ある10人です。ワークショップ受講者や実践者（実践校）の皆さんには、ぜひいろいろな味（講師）を味わっていただきたいと思います。



ライオンズクエスト認定上級講師 佐渡涼子

2013年度会員（2013年12月末日現在）

●個人：58名

飯田 助知	北山 宏	島田 佳宣	西木 宣雄	百田 勝彦
石原 典子	西園寺裕夫	寺田 慶子	松井 義之	山田 礼子
喜志 房雄	柴田 誠	成瀬 健生	水谷 隆夫	湯浅 清文

（敬称略、五十音順）

2013年度寄付者（2013年度12月末日現在）

●法人・団体：

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
ダイドードリンコ 株式会社
トヨタエルアンドエフ東京株式会社
公益財団法人 森村豊明会

（敬称略、五十音順）

●個人：3名

（上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。）

理事会（2014年4月1日現在）

理 事 長	野村 彰男	一般社団法人 グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク 理事 公益財団法人フォーリン・プレスセンター 理事
副理事長	中雄 政幸	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 前事務局長（L.）
理 事	栗田 收司 西田 浩子 小西 宗仁	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 事業推進担当 公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長 ライオンズクラブ国際協会333-C地区 元地区ガバナー ライオン誌日本語版委員会編集担当 船橋商工会議所 副会頭 公益財団法人 船橋市生きがい福祉事業団 副理事長 株式会社シティクリエート 代表取締役 ライオンズクエスト認定上級講師 健康教育講師 ライオンズクエスト認定講師 ライオンズクラブ国際協会330-C地区 元地区ガバナー名誉顧問 ライオンズクラブ国際協会330複合地区ガバナー協議会 国際関係・モンゴル友好委員会 委員長 埼玉レジャー産業株式会社 代表取締役会長 特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 事務局長兼務 ライオンズクエスト カントリーディレクター
	佐渡 涼子 北山 敏和	
	阿戸 健次	
	馬淵 英晃	
名誉理事	守随 武雄 藤本 厚子	パナソニック株式会社 客員 元幼稚園教諭
監 事	山本 和夫	東京ライオンズクラブ会長 公認会計士

（L.＝ライオンズメンバー）（就任時期順、五十音順）

ライオンズクエスト認定講師（2014年4月1日現在）

岡松 佐知子	（スクールカウンセラー・臨床心理士）
北山 敏和	（健康教育講師）
佐渡 涼子	（上級講師）
篠田 康人	（小学校教諭・元中学高校教諭）
柴 咲子	（元中学校教諭）
嶋田 祐子	（元中学校教諭）
寺本 之人	（中学校教諭）
外川 澄子	（元小学校校長）
中村 千恵子	（元中学校教諭）

（五十音順）

JIYD（青少年育成支援フォーラム）のネットワークと活動：

JIYDは、こうした方々のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会（LCI）



日本のライオンズクラブ
複合地区（8地区）・準地区（35地区）

ライオンズクラブ

LCIは、世界中に4万6千を超えるクラブがあり、135万人が会員として登録している世界最大の奉仕クラブ組織です。207を超える国と地域で地域奉仕に取り組んでいます。「われわれは奉仕する（We Serve）」をモットーに、視力保護、環境保護、飢餓対策、高齢者や障害者の支援、青少年育成など、多様な地域事業に奉仕活動を行っています。

LCIのホームページ参照：<http://www.lionsclubs.org/JA/>

Lions Questプログラム（LQ）は、ライオンズクラブの青少年プログラムの一つです。JIYDは“LQ実施団体”として、ライオンズクラブによるLQ普及活動をサポートするとともに、協同して普及活動に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会（LCI）の正式な慈善組織であるLCIFは、ライオンズの地域及び世界での人道奉仕活動に交付金を支給して、ライオンズの善意の活動を支援しています。LCIFは、視力問題との闘いから大規模災害への救援、青少年への価値あるライフスキルの提供まで、ライオンズによる世界中の人々の生活改善を支援しています。

LCIFのホームページ参照：<http://www.lcif.org/JA/>

Lions Questプログラム（LQ）は、LCIFの青少年のライフスキル育成・非行防止を目的とする青少年育成プログラムで、2002年にLCIFはLQの著作権を取得しています。JIYDは、2003年にLCIFより日本におけるLQ実施団体として指定されています。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）



International Youth Foundation
（IYF）

Global Partner Network™

IYFは、Lions Questプログラムを開発したリック・リトルにより1990年に創設されました。青少年の置かれている状況と将来展望を改善すべく、世界各地の団体とパートナーシップ関係を結び（Global Partner Network）、各地の青少年のニーズに合致し、成功を納めている事業を見出し、強め、広めています。

IYFのホームページ参照（英語）：<http://www.iyfnet.org/>

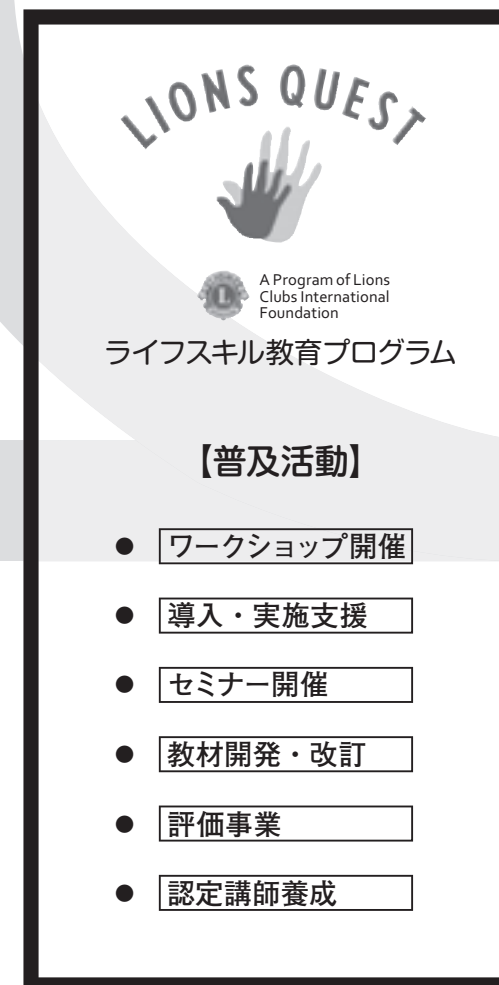
JIYDは、1997年にIYFの日本事務局（IYF-Japan）として設置され、2002年にNPO法人化して以降、現在もGlobal Partner Networkのメンバーです。

企業・団体・個人

トヨタエルアンドエフ東京株式会社



企業・団体・個人より、JIYDの事務局運営、並びに「ライフスキル教育」の普及事業に対して、ご支援をいただいています。



教育行政
学 校
教 員

青少年活動
指 導 者

子ども
青少年